

史跡九戸城跡 石垣シンポジウム



講演 肥前名護屋城と天正後半期の石垣技法

宮 武 正 登 氏 (佐賀大学 地域学歴史文化研究センター 教授)

報告 九戸城の石垣 佐 藤 由 浩 氏 (二戸市教育委員会文化財課 主任)

三戸城の石垣 野 田 尚 志 氏 (三戸町教育委員会 史跡対策室 室長)

盛岡城の石垣 佐々木 亮 二 氏 (盛岡市都市整備部公園みどり課 文化財主査)

パネルディスカッション

天正期から近世初頭の石垣について

司会 史跡九戸城跡整備指導委員会 委員長 佐 藤 信 氏

令和7年

開催日: **8月31日(日)** 13:00~17:00 (12:30 開場)

会場: 二戸市シビックセンター 1階ホール (二戸市石切所字荷渡6-2)

入場無料 (申し込み制 定員100名)

申し込み先 TEL 0195-23-8020

史跡九戸城跡発掘調査現地説明会

日時 令和7年8月31日(日) 10:00~11:00

場所 石沢館跡



石沢館の石垣(令和6年度)

主催 二戸市教育委員会事務局教育部文化財課

後援: 佐賀大学地域学歴史文化研究センター 盛岡市 三戸町教育委員会 (一社)岩手県文化財愛護協会
九戸城を活かす会 (一社)二戸市観光ツーリズム協会 (NPO)カシオペア市民情報ネットワーク

趣 旨

史跡九戸城跡は、中世城館である九戸氏の城から、九戸一揆後に石垣をもつ福岡城へ改修されました。

一般的に高石垣を築く技術が地方へと導入されるのは、秀吉による朝鮮出兵の際に肥前名護屋城や倭城の築城が行われた文禄・慶長年間以降とされています。福岡城の石垣は、文禄・慶長年間以前に再仕置軍によって築かれたものです。

令和6年度の調査でこれまで福岡城時代には曲輪として未使用と考えられてきた、石沢館から新たに石垣が確認され、福岡城時代の城域範囲として、石沢館が含まれていた事がわかりました。また、本丸石垣との積み方の違いがみられ地方へ高石垣の構築技術がどのように伝播したのか、その過程を考えるうえで重要な発見です。

また、本丸石垣が点によって築石を築いているのに対し、平坦面を意識した積み方という違いがあり、構築時期の違いや石を積んだ集団の違いを示す可能性が想定されます。

九戸城の石垣と三戸城、盛岡城の石垣、地方への石垣技術導入のきっかけとなったとされる肥前名護屋城の石垣との比較から、南部氏の石垣技術に対し、九戸城の石垣普請が果たした歴史的価値について検討します。



令和7年度石沢館石垣調査

